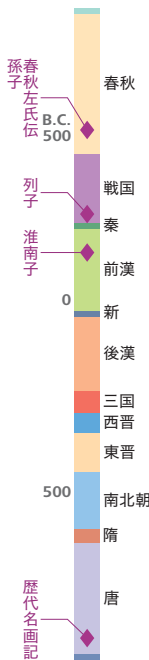


# 画竜点睛

大意 有名な画家である張僧繇は、武帝の命を受けて安楽寺の壁に四匹の竜を描いたが、その竜には瞳が入っていないかった。彼は、「瞳を描き入れると竜が飛び去るから入れないのだ」と言っていたが、人々はそれを信じなかった。強く頼んで瞳を描き入れさせたところ、彼の言葉どおりに、竜が壁から躍り出て、天に昇ってしまった。



故事成語 14

張僧繇 吳中人也。武帝崇飾佛寺，多命僧繇画之。金陵安樂寺四白竜，不点睛。每曰：「点睛，即飛去。」人以爲妄，固請点睛。須臾，雷電破壁，兩竜乘雲騰去上天。二竜未点睛者，見在。

(歴代名画記)

- 張僧繇 生没年未詳。南北朝時代の梁の画家。
  - 吳中 現在の江蘇省蘇州市。
  - 武帝 在位五〇二年〜五四九年。梁の初代皇帝。姓は蕭、名は衍。
  - 崇飾 立派に裝飾する。
  - 金陵 梁の都。現在の江蘇省南京市。
  - 眼晴 瞳。
  - 妄誕 でたらめ。
  - 問① 「固請「点睛」のあとに、どのようなことが行われたか。
  - 須臾 少しの間。たちまち。
- 僧繇が、自分の描いた四匹の竜のうちの「二匹に、瞳を描き入れた。

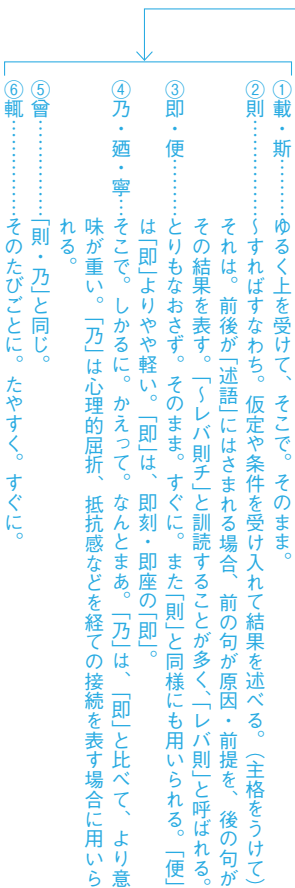
## 課題

一 張僧繇はどのような画家であったか、話し合ってみよう。略。(指導書参照)

## 語句と表現

一 「即」(14・3) 以外で「すなはち」と読む字を調べ、意味の違いをまとめてみよう。

二 「画竜点睛を欠く」は、現在どのような意味で使われているか、調べてみよう。だいたいよくできているが、最後の仕上げが不十分であるため、全体が不完全になってしまっている。



## 句法

● 命[A]B [A]に命令してBさせる。  
[使役]

## \*訓読で注意する語

即 以為 見

## ◆歴代名画記

十卷。張彦遠の著。絵画の技法や理論、画家の伝記などをまとめる。

## ◇張彦遠

生没年未詳。字は愛賓。唐代末期の書家・画家。